

## 備前焼き菓子皿

遠来の和尚さまや役員・特別寄付者の晋山記念として二年がかりで作成された「備前焼き菓子皿」です。

備前焼きは釉薬を使わない「焼きしめ」と言うめずらしい焼き物で、数種類の形と紋様は、一つとして同じ作品はありません。

正定寺の檀家さんに作家さんがいますので、ぜひぶん無理を言ってお願ひしました。

作者の佐藤和久氏は備前焼細工物作家で、昭和四十六年生れの大分市出身です。

福岡大学応用数学科を卒業して備前焼の出井尚文氏に師事。平成二十一年に備前市牛窓で築窯して独立しま

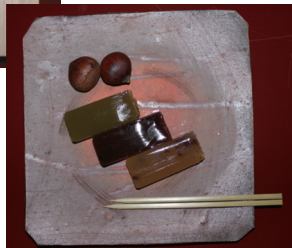
した。

桐箱の文字は「喫茶去」と読み、国泰寺派管長さんの「澤 大道老師」の筆です。

「どうぞお茶でも召し上がれ」と言う言葉でそこには「何のわだかまりも無く」無心でお茶を呑みなさいと言う意味があります。

「あれこれ詮索したり、いらぬ事を考えたりせず、にさあ一服いかがですか」とお菓子を盛って「二期一会」を楽しみながら器を眺めて下さい。

▼菓子を  
もった様子



▲澤大道老師の  
喫茶去の箱書き

尚、今回の菓子皿は作者の「箱書き」をお願いしなかつたので全てお渡しした方の氏名や所在は作家さんにお知らせ致します。

この作家さんがどの時代にいくつ作ったかが後に分かるようにするためです。

## 風呂敷

古来より寺院のお祝い事には「菓子・扇子・風呂敷」の引き物が必ずついています。

南陽和尚晋山式には、新命和尚が修行した佐伯養賢寺の片岡省念老師（龍潜洞）に風呂敷の揮毫をお願い致しました。

晋山式の風呂敷には必ず目出度い言葉が書かれています。今回の文字は「壽山萬丈高」と読み、左には「寶林山 正定寺」とあります。

この言葉は「壽山萬丈高、福海千尋深」と言う句の一文です。

閑栖和尚の名が壽山と書いた時の言葉を書いたいただきました。

※「壽山」めでたい年の事や慶び」

※「萬丈高」非常に高い事」



揮毫していただいた掛け軸

## 晋山式の記念品

三十年前の晋山式記念品は仏壇に供物をそなえ

る「丸供物台」でした。裏には「昭和五十七年晋山式」と書かれています。今回は、縁高といいま

縁高は菓子椀に代わる正式な菓子器です。折敷の縁を高くした形のものでその名前がついています。正式名は縁高重といえます。

昔は料理の一部として、果実を菓子として縁高に盛ったり、現代の会席料理の「口取り」にあたるようなものです。

写真のように菓子器に用いたり、仏さまの供物入れでも色々工夫してお使い下さい。

※「口取り」酒や茶などに添えて出される食物。



縁高